

かんこつきゅうかんせつしんそんしょう  
『寛骨臼関節唇損傷症例に対する理学療法の治療成績』についてのご説明

## 1. 研究の目的

寛骨臼関節唇損傷は、骨盤や大腿骨頭の骨形態異常や、股関節の機能障害を起因とし、股関節の安定化に寄与する関節唇が損傷し、股関節周囲の運動時痛を呈す疾患です。

当院では関節唇損傷による症状が疑われる、寛骨臼関節唇損傷、寛骨臼大腿骨インピンジメント、境界型寛骨臼形成不全の患者さんに理学療法を実施しています。理学療法の目的は、股関節の可動域を拡大したり、筋力を強化して動作を安定化することで、関節唇へのストレスを軽減し、症状の改善を図ることです。理学療法の有効性を検証し、より効率的な治療への発展のため、当院では寛骨臼関節唇損傷に対する理学療法成績向上のための研究を行っています。

医学上の貢献：この研究参加により寛骨臼関節唇損傷に対する理学療法の有効性を明らかにし、保存治療の選択肢を広げることで、不要な股関節鏡手術を行う症例数を減少させることが期待できます。

## 2. 研究の方法

### ●対象となる患者さん

2013年4月1日から2020年12月31日までに当院の整形外科にて寛骨臼関節唇損傷、寛骨臼大腿骨インピンジメント、境界型寛骨臼形成不全と診断され、MRIに

より関節唇損傷を認めた患者さんが該当します。

● 予定症例数は 50 症例となります。

● 利用するカルテ情報

年齢、性別、罹患側、画像所見、治療歴、臨床スコア、理学所見、機能評価表を使用します。

● 研究期間

病院長承認日から 2021 年 3 月 31 日です。

過去の資料を用いるため、患者さんに新たな検査を行うことはありません。

### 3. プライバシーの保護

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

### 4. 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

この研究へのご自分の診療情報の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。調査期間中であってもいつでもお断りいただけます。

その場合は、下記担当医にお申し出ください。

ただし、ご連絡を頂いた時点で既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを

取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなります。

## 連絡先

〒 060-8543 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学整形外科学講座 助教 舘田 健児（研究責任者）

札幌医科大学医学部 生体工学・運動器治療開発講座 特任教授 名越 智

札幌医科大学整形外科学講座 助教 小助川維摩

月-金 9:00-17:00：電話 011-611-2111 内線 33330（整形外科学講座）

時間外・休日の連絡先：電話 011-611-2111 内線 38490（4 階 西病棟）